

中学校 技術・家庭科 第23回
全国中学生創造ものづくり
教育フェア in かながわ

募集要項

令和5年11月4日(土)
湘南工科大学

●主 催	神奈川県公立中学校教育研究会	技術・家庭科研究部会
●後 援	神奈川県公立中学校長会	
	神奈川県公立中学校教育研究会	
	神奈川県中学校文化連盟	
●協 賛	学校法人 湘南工科大学	湘南工科大学附属高等学校
	株式会社 テクノ教育	
	株式会社 相場教材センター	
	株式会社 中村教育システム	
	有限会社 美工社	

関東大会・全国大会の期日・会場について

●関東甲信越地区大会・栃木大会

令和5年(2023年)12月2日(土)～12月3日(日)
新しい情報が分かり次第、お知らせいたします。

●全国大会

令和6年(2024年)1月20日(土)～1月21日(日) 午前9時～午後5時
中央区立総合スポーツセンター(本部会場)
※「体験コーナー」「教材・器具等の紹介」は開催しません。

I 開催の趣旨

21世紀に入り、世界ではIT（情報技術）革命、宇宙科学の進歩、地球環境の改善など、新たな科学技術が日進月歩で開発されている。これに伴い、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す「知識基盤社会」の時代になっている。そんななか、我が国の科学技術・製造技術は、世界に誇れる技術力（ものづくりの力）を持ち続けてきた。

しかしながら、我が国の若者達は、「科学技術離れ」、「ものづくりの体験の不足」や、「身の回りにおけるものづくり環境の減少」が顕著であり、これらが教育的な課題になっている。これらの課題を早急に解決していかなければ、21世紀の世界の激しい技術開発競争に、我が国は勝ち残っていくことができなくなってしまうのではないだろうか。

このようななか、平成11年(1999年)に「ものづくり基盤技術振興基本法」が法案化され、基本計画が制定された。この基本計画は、我が国がもっている本来の技術力をより一層高め、高度な技術者を育成する「ものづくり教育」の充実・発展を進める具体的な施策である。このことにより、「ものづくりに関する学習」が企業をはじめ、大学、高等専門学校、小中学校で進められることになったが、「ものづくり教育」を学校教育の学習体系として進めていく教科は、義務教育においては中学校における技術・家庭科だけである。

私ども神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会（以下、県技家研）は、教科発足以来約50年間、その時代の社会の変化に適応する人材育成のために、「ものづくり 人づくり 国づくり」を教育の理念として実践を進めてきた。「ものづくり」の実践的・体験的な学習を通し、進んで生活を工夫し創造する能力と、創造性を發揮し生活の自立を図り、持続可能な社会を構築できる「人づくり」に取り組んできているところである。まさに、この教科教育の理念や具体的な実践は、世界に通用する日本人の基礎的な資質（国づくり）を育成する教育であり、ものづくり基本法の精神に則った「ものづくり学習」だと受け止めている。

そこで、県技家研(略)では、中学校の技術・家庭科において「ものづくり学習」を実践してきた生徒達の教育的成果を発表し、本教科の「ものづくり 人づくり 国づくり」の教育理念を県民の皆様や一人でも多くの小中学生に御理解いただくとともに、これから「ものづくり教育」の発展・充実のために、神奈川県公立中学校教育研究会、神奈川県中学校文化連盟からの後援を受け、次のような目的をもった“全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわ”を開催するものである。

- 1 中学生が知識や道具を駆使して、様々な条件のもとで最適解を見付け、進んで生活を工夫し創造することを学んだ、技術・家庭科の実践発表の場とする。
- 2 未来への飛躍を実現する人材を育成するために、多様な体験と切磋琢磨の機会を増大し、学習意欲やものづくりへの製作（制作）意欲の向上を図る。
- 3 優れた能力と多様な個性を伸ばす技術・家庭科の学習内容を、広く県民の皆様に知らせるとともに。全県の技術・家庭科教員の指導力向上を目指す研修の場とする。

II 会場について

湘南工科大学

〒231-0023

神奈川県藤沢市辻堂西海岸一丁目1番25号

鉄道 JR東海道線「辻堂駅」南口 徒歩15分

バス 「浜見山」「浜見山降車場」 徒歩3分

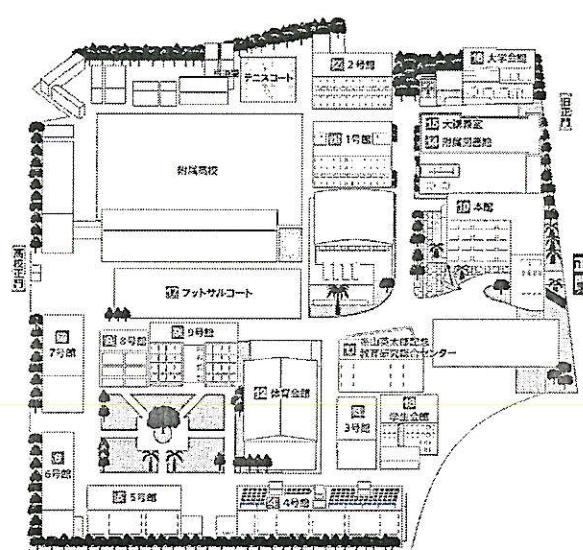
電話 0466-30-0200

会場周辺地図



※googleマップより引用

校舎構内図



III 生徒作品コンクール部門

1. 目的

全国の中学生が、工夫・創造して製作した作品を展示し、生徒相互の「ものづくり」への意識を高揚するとともに、製作における技能の向上を目指す。

2. 申込期日 令和5年9月7日(木)厳守

3. 作品部門

【I部門 授業内製作作品】

技術分野・家庭分野共に、総製作時間数（設計・製作を含む）の内、主に教科の授業中に創造製作した作品（総合的な学習の時間、放課後の活動、部活動、休み時間等は、教科の授業中の製作活動とみなさない）。

【II部門 自主製作作品】

技術分野・家庭科分野とともに、技術・家庭科で学習した知識や技術を生かし、製作した創造作品で、I部門（授業内製作作品）に該当しない作品（総合的な学習の時間、長期休業や放課後の活動、休み時間等で製作したもの）。

4. 出品点数

①技術分野・家庭分野、I部門・II部門合わせて各校4点までの出品とする。

②2人以上で製作した作品はII部門のみの出展とする。また技術分野1作品、家庭分野1作品までとする。

5. 出品作品の条件

①大きさは、縦+横+高さ=160cm以下とする。

②重量は25kg以下とする。

③I部門は、製作費が5,000円以下とする。

④家庭分野の衣類に関しても、1着の重さは作品規定を超えてはならない。

⑤規格外の作品は審査の対象外とする。

⑥知的財産権（著作権、商標権など）を遵守する観点から、キャラクター入りの作品は審査の対象外とする。

6. 応募資格

①令和5年度に日本国内の中学校に在学している生徒が製作した作品であること。

②入賞した作品は全国フェアへの出品があるため、それを保護者及び学校責任者が承諾していること。

7. 提出書類

①応諾書 ②写真データ（作品全体1枚とアピールできるポイント2枚 計3枚）

③審査資料 ④作品申込書

8. その他

①応諾書と作品申込書に記載されている生徒名が一致しないなどの書類の不備があった場合、手続きが間に合わず作品を出展できない場合があります。書類提出前に管理職や保護者の方に確認を取ってください。

②写真データなどの審査資料が整っていない場合、審査に影響する場合があります。

【問合せ・書類提出先】

〒252-0243

相模原市中央区上溝2322番地の2

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局

書記 池田悠士（相模原市立上溝南中学校 教諭）

メール：ikeda242@sgw.sagamihara-kng.ed.jp

電話：042-763-0155

IV 木工チャレンジコンテスト (案)

1 目的

- (1) 中学生による木が中心のものづくりの技能、技術を競う大会を設け、中学校技術・家庭科で学習したものづくりの技術・技能を発揮する場とする。
- (2) ものづくり学習への意欲や希望、そして創造の夢を与え、中学生のものづくり交流の場とする。
- (3) プレゼンテーション能力の向上を図り、ものづくりの技能のみならず自分の考えを分かりやすく表現でき、広く社会に関われる人材を育成する。

2 予選について

※これまで、in かながわにおいては、全国大会競技を視野に入れた課題に取り組んできましたが、「材料と加工の技術」についての学習指導要領に示された枠組みの変化により、参加校が大幅に減少してきています。上記した現状、目的(1)～(3)の趣旨を踏まえ、中学生が学校生活の中で取り組める課題とし、その課題への取組状況を評価したうえで、上位大会（全国大会）への推薦を行うことを考えております。今年度より予選競技の内容を大幅に変更致しておりますので、ご了承ください。

- (1) テーマ 「生活の問題を木工の技術により解決できる収納棚」の構想を立てる
- (2) 課題について

〈課題〉 上記のテーマについて設計し、3時間30分以内で製作できるものとする。
・パイン板材4枚のうち、(寸法 t15×W150×L600) 2枚、(寸法 t15×W30×L600) 2枚とする。これら以外は、接合金具（釘、木ねじ、ボルトナット、ノックダウン金具、補強金具、蝶番）及び、取手、フック、マグネットキャッチ、補助に使用するプラスチック材のみ使用可とする。なお、プラスチック材を補助に使用する場合、プラスチック材は個人で準備をすること。

※材料取りをする際に、縦引きによる切断は含んでも含まなくてもどちらでもよい。

※くぎ（32mm・38mm等）、酢酸ビニル樹脂系接着剤を使用する。

※製作工程において、さしがねによるけがき、両刃のこぎりによる切断、くぎ打ちによる組み立て、直角定規等による検査、紙やすりによる仕上げ作業を含むこと。平かんなによる作業は含んでも含まなくてもどちらでもよい。

※接合金具は（釘、木ねじ、ボルトナット、ノックダウン金具、補強金具蝶番）のみとする。〔プラスチック等の使用はできません〕

※機械による部品加工は行わない。

(3) 応募について

- ① 〈課題〉の条件を満たす作品の構想図（A4のケント紙を使用）をPDFファイルで送信
- ② 応諾書（全手中Webサイトよりダウンロード）を簡易書留で郵送（費用は各校負担）
- ・令和5年9月7日（木曜日）までに次に示す申込先まで提出をよろしくお願ひします。

申込先	神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会 横浜市立舞岡中学校 教諭 向井大貴（書記）宛 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町226番地 Eメールアドレス ta01-mukai@city.yokohama.jp
-----	---

- ・①の送信及び②の送付が完了しましたら、必ず電話連絡による確認をしてください。
- ・審査の結果、県大会出場が決定した場合、大会事務局より令和5年9月25日(月曜日)までに、競技に係る連絡をいたします。
- ・なお、県大会の出場定員は最大6名で、原則として出場できるのは各学校3名までとします。
- ・ただし、予備審査の応募人数には規定はありません。

(4) 審査について

- ・課題である「生活の問題を木工の技術により解決できる収納棚」を決められた材料で、日頃の授業で身につけた問題解決する力を発揮し、構想が自らの生活上の問題点の解決を図るものになっている。
- ・近年問題となっている環境問題の観点から材料を余すことなく有効に使われており、環境への配慮が出来ている。

○上記2点を踏まえ、製作構想が出来ていることを重点とする。

3 in かながわについて

テーマ 「生活の問題を木工の技術により解決できる収納棚」

(1) 競技内容

- ①予選で設計した製作図に示された作品の製作。
- ②製作品の構想シートに基づき、製作した作品についてプレゼンテーションを行う。
- ③in かながわにおいて的一位入賞者は、全国大会1次審査へ推薦を行う。

(2) 参加資格 次の①及び②の条件を満たす者。

- ①神奈川県内の国公私立中学校に在籍する中学校1～3年生で、校長が参加を認めた者。
- ②上位に入賞した選手1名は全国大会1次審査課題に基づき、11月17日までに
 ・製作品 ・製作動画 ・構想図 ・問題解決レポート ・材料取り図 ・工程表
 ・応諾書 を運営事務局に提出する。(送料各校負担)

※詳細は <https://ajgika.ne.jp/fair/23/doc/monog-guideline.pdf> を参照。

このため、令和6年1月20日(土), 21日(日)に開催される第23回全国中学生創造ものづくり教育フェアの出品審査へ参加することが可能である者。

(3) 本選の日程 (エントリー数にもよりますが、現時点の予定です)

- | | |
|-------------|---|
| 8:00- | 集合受付 ▶ 材料購入後、競技控室へ |
| 8:30- 9:10 | 全体開会式【8301 コンベンションホール】 |
| 9:20- 9:40 | 準備・事前説明【大会会場】 |
| 9:40-11:40 | 前半製作競技開始(120分)【大会会場】 |
| 11:40-12:10 | 昼食・休憩【糸山英太郎記念教育研究総合センター ラウンジ】 |
| 12:10-13:10 | 後半製作競技開始(60分)【大会会場】 |
| 13:10-13:40 | 片付け(30分) |
| 13:40-14:10 | プレゼンテーション【8301 コンベンションホール】 |
| 15:00- | (審査)
部門別閉会式【コンベンションホール】※原則、出場生徒は参加
結果発表 |

(4) 表彰（予定）

- ・神奈川県知事賞（1位：全国大会推薦）
- ・神奈川県教育長賞（2位）
- ・神奈川県中学校文化連盟会長賞（3～5位）
- ・社団法人全国中学校産業教育教材振興協会会長賞（6～8位）
- ・神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会長賞

(5) 評価の観点（検討中）

評価の観点は、以下のA～Eの5項目とする。

A 創意工夫……作品に創意工夫があるか。

- (1) 作品に形態、構造、機能などの点で創意工夫があるか。
- (2) 与えられた材料を過不足なく有効、合理的に使用しているか。
- (3) 与えられた条件を満たした創意工夫があるか。

B 製作態度……安全に留意して合理的に作業を進めているか。

- (1) 安全に留意して作業を進めているか。
- (2) 工具を合理的で丁寧に扱っているか。
- (3) 合理的な手順で作業を進めているか。

C 製作技能……材料の固定、工具の持ち方、作業身体動作等、工具の合理的な使用に関する知識と技能を修得しているか。

- (1) のこぎりの使用に関する知識と技能を修得しているか。
- (2) げんのうの使用に関する知識と技能を修得しているか。
- (3) のみの使用に関する知識と技能を習得しているか。
- (4) その他の工具の使用に関する知識と技能を修得しているか。

D 作品の精度……作品の仕上がり精度・材料の使用法がよいか。

- (1) 部材の寸法が正しく、接合面に目違いがないか。
- (2) 作品の角度は正しいか。
- (3) 表面がきれいに仕上がっているか。
(逆目ぼれ、端欠け、かんなまくら、耳立ち、くぎの突出、げんのうによる打撃痕等)
- (4) 各部材の合理的な使用がなされているか。(木目による纖維方向等)

E プレゼンテーションの内容……作品に対して的確なプレゼンテーションが出来ているか。

- (1) 最低、『作品を作ろうとしたきっかけ』『使用法とシステム』『工夫した点』『頑張った点』がプレゼンに組み込まれているか。
- (2) 教具や教科書、使用例などを用い、伝えたい相手に伝わりやすい具体的なプレゼンができたか。

(6) 審査員（予定）

横浜国立大学教育学部 小林大介 準教授
横浜国立大学教育学部 鬼藤明仁 教授
玉川大学教師教育リサーチセンター 佐藤修 講師他

(7) 運営役員

運営責任者：石井秀明（神奈川県技・家研 副部会長）

運営責任者：向井大貴（神奈川県技・家研 書記）

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会 スタッフ

4 参加費用

- (1) 予選…………製作材料費、郵送料（作品返送料を含む）は各校負担とする。
- (2) in かながわ…………製作材料費（3,000円程度、後日お知らせします）、交通費等は各校負担とする。
- (3) 全国大会…………会参加費2,000円、振込手数料は各校負担とする。

全国予選について（資料）

参考 令和5年度全国大会要項

※全国大会 本選（令和5年1月10日までに製作品等を運営事務局へ郵送）

『競技課題』：与えられた材料を活用して、生活や社会の問題を木材加工の技術により解決できる作品を設計・製作すること。ただし、以下の競技規定を満たすものとする（構想作品の例：高齢者又は幼児のための作品、学校又は家庭で役立つ作品など）。

(1) 競技規定

- ・運営事務局より出された競技課題について、各自で4時間以内に完成すること。
- ・加工は基本的に手加工とする。使用できる工作機械は、卓上ボール盤と糸のこ盤のみとする。
- ・材料はヒノキ板材2枚（寸法：t15×W200×L900）とシナ合板1枚（寸法：t4×W450×L450）とする。これら以外は、接合金具（釘、木ねじ、ボルトナット、ノックダウン金具、補強金具、蝶番）及び、取手、フック、マグネットキャッチのみ使用可とする。
- ・作品の大きさは、3辺の合計が160cmまでとする。
- ・製作工程において、さしがねによるけがき、のこぎりによる切断、平かんなによる部品加工、くぎ打ちによる組み立て、定規等による検査、紙やすりによる仕上げ作業を含むこと。
- ・使用できる工具類は、技術・家庭科教科書（学習指導要領準拠）の内容「A 材料と加工の技術」に関わる部分に掲載されているものに限る（木工チャレンジHP掲載「教科書掲載工具」参照）。
- ・その他（ドリル刃のサイズなど）は、木工チャレンジHPに掲載されている「製作部門過去Q&Aまとめ」を確認すること。なお、迷われる場合は、必ず事前に事務局にお問い合わせ下さい。

(2) 材 料

- ・ヒノキ板材（寸法：t15×W200×L900mm、数量：2枚）……幅100mmの板を2枚貼り合わせたきわはぎ板
- ・シナ合板（寸法：t4×W450×L450、数量：1枚）

(3) 工具類（すべて参加者や中学校が用意すること）

- ・作業に適した服装、作業中の靴。
- ・工具の種類は、現在中学校で使用されている技術・家庭科教科書（令和3年度入学の1年生へ支給された教科書も含む）に掲載されているものに限る。
- ・鉛筆（赤鉛筆を含む）、鉛筆削り、消しゴム、タオル5枚程度。
- ・工作機械（卓上ボール盤、糸のこ盤）を使用する場合の刃物・ジグ類。
- ・接合金具（釘、木ねじ、ボルトナット、ノックダウン金具、補強金具、蝶番）、取手、フック、マグネットキャッチおよびその取り付けに必要な手工具（三つ目ぎり、ドライバー等）。

(4) プレゼンテーション（動画撮影）

- ・作品の使用法、工夫点、評価・活用結果等について、2分以内で発表する。
- ・プレゼンテーションでは、作品の他に、説明用ポスターとして紙やパワーポイントスライド2枚以内を用いて発表することができる。ただし、必要な道具等は各自で用意する。また、スライドにアニメーション機能は使用しないこと。
- ・撮影機器は特に指定しない。動画形式は問わないが、一般的に利用されている動画形式で撮影して保存すること。
- ・プレゼンテーションの審査対象は動画ファイルとする。20日の「プレゼンテーション、PR」の間に動画ファイルを事務局から放送するとともに、オンラインで各競技者が1分以内の自己PRを行う。
- ・撮影の際は、音声が十分聞き取れるよう、機器の選定や撮影距離等に配慮すること。
新型コロナ感染症前の内容です。内容に関しては検討中です。

(5) 会場準備工具

- さしがね(300×150mm)
 - けびき
 - くぎ抜き
 - げんのう
 - 四つ目ぎり
 - 三つ目ぎり
 - はたがね
 - クランプ
 - 削り台
 - 両刃のこぎり
 - 作業台に付属する万力
 - 平かんな
 - 追入のみ(9mm・15mm)
 - 直角定規
 - 端材
 - 木工用接着剤
 - バケツ
 - 箒
 - ちりとり
 - 雑巾
 - ビニール袋
 - ボール盤【ボルト等の穴あけ用のみ使用可、釘の下穴あけの使用は不可、刃は各自準備】
- ※長さの違う釘が必要な場合は持参し使用することを許可する。
- 長いさしがねが必要な場合は持参し使用することを許可する。
- ※会場校によって、準備工具が異なることもあります。詳細は参加校にお知らせします。
- ※大会に関する情報は県技・家研ホームページにて確認すること。

(6) 持参するもの

- 鉛筆（赤鉛筆也可）
 - 鉛筆削り
 - 消しゴム
 - タオル
 - 上履き
 - 作業に適した服装
 - 昼食
- 【必要に応じて……接続金具とそれを取り付ける工具（卓上ボール盤の刃等）】
- プレゼンするために必要物品（教科書や筆記用具等）

(7) 評価……「評価の観点」をもとに、総合的に行う。

V 豊かな生活を創るアイデアバッグ

※作品の条件は、全国大会要項に準ずる。

〈作品の条件〉

①競技の課題について

『バッグ（ショルダーバッグ、トートバッグ、リュックサックなど）』とする。

②使用する布について

- ・バッグ本体の全部または、一部に、家庭にある自分または、家族の衣服を用いる。
その他、衣服以外の布などを加えてもよい。

③デザイン及び機能について

- ・衣服の一部をそのままの形で1つ以上活用する。
(例：ポケットの形状やボタンをそのまま利用するなど)
- ・『バッグ』の口を閉じられるようにして、中身が出ない工夫をする。

④縫製について

- ・入れるものに必要な強度が保たれるように、布目の方向や縫い目の大きさ及び縫い代の始末の仕方などを工夫する。
- ・バッグのいずれかの部分にまつり縫いを取り入れる。
- ・スナップは、必ず1つ以上付ける。
- ・3時間程度で製作できる作品とする。

⑤レポートについて

- ・レポートには、「テーマ」、「構想」、「自分や家族の生活を豊かにする視点」、「私にとってのものづくりの視点」と「衣服の再利用の工夫（どの部分をどのように活用するか）」その理由を明記すること。また、まつり縫い・スナップを取り入れた部分を明記すること。（朱書きする）
- ・解体前の全体像を、写真またはイラストで表す。

※プレゼンテーションについて

県予選では、プレゼンテーションの審査は行いません。代表に選出され上位大会に進出した場合はプレゼンテーション審査が行われます。

評価項目	評価の内容
レポート	・「自分や家族における課題」、「解決方法（衣服等の再利用を含む）」、「期待される効果」を具体的に記述しているか。
作業手順	・「製作工程」、「型紙の配置」、「まつり縫い・スナップを取り入れた部分」を具体的に記述しているか。
まとめ方	・作業工程全体からアイディアまで分かりやすく記入しているか。
布の種類	・作品に適した布地を使用しているか。

縫 製	仕上がりの美しさ	・作品の出来栄えはどうであるか。
	縫い代の幅と始末の仕方	・布やバッグの部位に応じて、適切な幅であるか、縫い代を適切に始末しているか。
	持ち手の丈夫さ	・持ち手にふさわしい強度があるか。
	まつり縫い	・まつり縫いが適切にできているか。
	スナップ付け	・スナップを適切に付けているか。
	ミシン縫い	・バッグの部位に応じて、縫い目の大きさや強度が保たれる工夫をしているか。
衣服の再利用	デザイン	・衣服の一部の利用は、テーマに応じたデザインになっているか。
	機能性	・衣服の一部の利用は、テーマに応じた機能を満たしているか。
	使用者への配慮	・使う人の立場に立った工夫がされているか。

〈予選会に必要な書類等について〉 9月7日(木)必着とします。

○参加応諾書・製作レポート

製作レポートは規定の用紙を用いることとし、必ず手書きをして、A3カラー印刷で提出する。<http://www.ajgika.ne.jp>よりダウンロード)

○各自の作品（バッグ）

★作品送付先

〒253-0061 茅ヶ崎市南湖6丁目15番3号

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局 技術部長

茅ヶ崎市立西浜中学校 教諭 佐久川 仁

TEL 0467-85-3167 FAX 非公開

○作品返却用の宅配便着払い伝票

※県フェアにおいては、実際の競技は行いません。

担当者（問合せ先）

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局

川崎市立西中原中学校 教諭 玉城愛理（会計）

〒211-0041 川崎市中原区下小田中2丁目17番1号

TEL 044-777-2239 FAX 044-799-3954

VI 「あなたのためのおべんとう」コンクール

1 目的

- (1) 中学校技術・家庭科での学習内容を生かし、おべんとう作りを行う。その成果の発表を通して、知識や技能の向上を図り、よりよい食生活を目指そうとする意欲を育てる。
- (2) 普段通りの日常生活（ケの日）のなかで、食べてもらう相手のことを考えたおべんとう作りを通して、身近な人との関わりの大切さや「食」の重要性を知る。
- (3) コンクールを通して、参加者が互いの工夫点や技能を学び合い、神奈川県内の中学生の交流の場とする。

2 参加人数 出場チームは1～2名で1チームとする。

- ・各校からの参加チーム数は、4チームまでとする。また、チーム構成メンバーが重複してのエントリーは認めない。

3 参加費 1チームにつき、500円（光熱費として）

4 競技について

(1) 作品の条件

対象者「あなた」を設定し、食べる季節(旬)や対象者に応じた食事摂取基準、対応する食品群等を意識して分量を決めて調理する。

(2) 食材

①規定課題「魚を使った調理」を主菜とする。

※魚は、すり身や干物、缶詰、瓶詰め、冷凍も可。

※甲殻類（エビ、イカ、カニ）は魚の仲間としない。

②材料費の目安は、1チーム1人900円×人数分とする。

③食材（米や調味料も含む）は参加者が準備する。（あらかじめ小分けにしないこと、計量は時間内に行う）

(3) 競技時間

①準備 30分、競技 90分（下ごしらえから片付けを含めて）

※チームで役割分担をし、調理を行って下さい。

②洗米吸水は、準備の時間に行ってよい。（炊飯開始も可能）

乾物の処理も同様とする。

③おべんとう箱のふたをしめて完成とする。

④プレゼンテーションは1チーム1分の時間を厳守する。

(4) 用具

①弁当箱、弁当小物は各自で選び、持参する。

※形、色、サイズ等は自由。

②特別な用具等は、各自持参してもよい。ただし、包丁は安全面を考え、持込は禁止とする。

(5) 服裝

・エプロン、三角巾、上履き（かかとがあり、脱げないもの）

(6) 申込方法

・所定の用紙に、必要事項を記入し、校長の承認を経て申し込む。

・第一次審査に必要な書類について

○参加承諾書 ○レポート <http://ajgika.ne.jp/> よりダウンロード

○審査結果・作品返送用封筒（A4 サイズ）宛名を記入し、切手を貼って下さい。

5 その他

- (1) 大会時の負傷、疾病については応急処置のみ行う。
- (2) 参加生徒の学校名、氏名、作品は Web ページなどに掲載させる予定。
- (3) 実施要項に変更点がありましたら、随時内容を更新する。
- (4) 本戦出場決定チームへは、材料の準備・調理器具の準備等について連絡する。
(本選では、審査試食分を作成してもらう)
- (5) 調理で出たゴミは、各グループで持ち帰る。
- (6) **神奈川県大会を1位通過すると、そのまま全国審査へ進む。**
全国審査を通過すると、全国大会への参加資格を得る。
また、2位は全国大会のレポート審査にすすむ権利を有する。

6 審査

〈第1次審査〉書類審査（選考結果は大会事務局より連絡をする。）

〈第2次審査〉実際に調理競技を行う。

- ・提出されたレポートをもとに選考し、上位 12 グループは実際の大会で競技を行う。
(上位 12 グループすべてに賞状が出ます。)

7 審査項目

計画	食材・献立	食材・献立が対象者にふさわしいか。
	栄養バランス	対象者の食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすに準じ、栄養バランスがとれているか。
	規定課題	「魚」を主菜として効果的に調理し、おべんとうに適した献立になっているか。
技能	手順	調理の手順や作業は能率的に行われているか。
	調理方法	おべんとうに適した調理方法が工夫されているか。
	盛りつけ	彩りや配置を工夫して盛りつけているか。
	味	個々の食材を生かし、おべんとうに適した味付けとなっているか。
	安全な作業	用具を適切に扱い、安全に配慮して作業を行っているか。
	環境への配慮	環境に配慮して調理を行っているか。（食材、水、熱源、器、洗剤など）
表現	完成	時間内に完成することができたか。（後片付けも含めて 90 分間）
	テーマ	テーマに沿う適切な発表であり、課題設定は適切であるか。
	組み立て	食べてもらう人のことを考えたおべんとうであること 食の重要性が理解されていることがわかる内容であるか。

担当者（問合せ及び申請書類の送付先）

神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会事務局

相模原市弥栄中学校 教諭 中瀬有喜（家庭部長）

〒252-0229 相模原市中央区弥栄3丁目1番7号

Tel : 042-758-0252 Fax : 042-758-0693

VII 創造アイディアロボットコンテスト

1 目的

- (1) 中学校技術・家庭科で学習した知識や技能を生かし、ロボットの設計・製作を行い、その成果の発表の場とするとともに、知識や技能の向上を図る。
- (2) コンテストは一つの授業の場として、参加者が互いに工夫点や機能性、構造などを学びあえるようにする。また、ものづくりに取り組んできた全国の中学生の交流の場とし、得点至上主義に走らず、発想や製作技能・努力を評価し合う。

2 日 時 前日準備 令和5年11月3日(金)

競技当日 令和5年11月4日(土)

3 会 場 湘南工科大学

4 運営体制【調整中】

5 各部門について

(1) 基礎部門：「Ace in the hole 3」

アイテム8本(110mm→2本, 220mm→2本, 330mm→2本, 440mm→2本)を自陣の色の決められたシュートスポットにシュートしていく競技。使用するモータは4個まで。

(2) 計測・制御部門：「ワクワク！ロボット定植～スマート農業」に挑戦！～

苗に見立てたアイテム(カラーボール)を定められた場所に定植(ゴール)するロボットをつくり、定植したアイテムの個数(得点)を競います。1チーム生徒1～3名で構成し、操作者・アシスタントの2名(=競技者)が競技に参加できる。

(3) 応用・発展部門：「もっと支援物資を運搬せよ！」

ロボットによる対戦型。時間内にロボットを使ってコート中央にあるアイテムを自分のゴールエリア(4箇所)にアイテムを置く競技。メインロボットを2台まで製作することができ、モータの個数はチームで合計6個まで。ビックリドッキリメカの使用するモータは4個まで。

(4) 動画部門

ダンスや機能など、オリジナルロボットのパフォーマンスを発表する部門。ロボットの特徴や学習活動がよくわかるように撮影・編集を行い、2分以内の動画をYouTubeにアップロードする。

*詳しいルールなどは「第23回 全国中学生創造ものづくり教育フェア 創造アイディアロボットコンテスト」用のルールに基づきます。「<http://ajgika.ne.jp/~robo>」を必ずご確認ください。

*県フェアでは、PRタイムの代わりに、競技終了後ロボットを見せ合う時間を設けます。

6 コート代

- ・エントリー数に応じて、各チームへの負担をお願いします。

7 申込について

- ・各校のエントリー数は基礎部門3チーム、計測・制御部門、応用・発展部門に関しては2チームまでと制限する。ただし、今年度は各校において+1チームの追加をチーム事情(1チーム参加できると全員エントリーできる、3年生が全員出場できる等)により、許容したいと考えているので、事前に相談してください。

*上記の事情により、追加で参加する場合もあることを御理解・御承知おきください。

・応諾書(全日中技・家研HP <https://ajgika.ne.jp/fair.html> より)に必要事項を記入のうえ、郵送でお申し込みください。9月7日(木)必着

*その他の提出書類については後日お知らせします。

8 その他

*当日の運営・審判などについては、お申し込みいただいた学校に連絡いたします。

担当者(問合せ・申込書類提出先)

〒253-0061 茅ヶ崎市南湖6丁目15番3号

茅ヶ崎市立西浜中学校 教諭 佐久川 仁(技術部長)

電話: 0467-85-3167

メール: koyazi1983@yahoo.co.jp

◇この資料についてのお問合せは次に示す連絡先までお願いいたします◇

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局

川崎市立南大師中学校 教諭 矢坂 健太郎（フェア事務局長）

〒210-0828 川崎市川崎区四谷上町 24 番地の 1

電話 044-266-2125 ファクシミリ 044-287-4071

E-mail アドレス t2005745@kawasaki-edu.ed.jp